

さがえ屋通信

お客様とのお縁を紡ぐおせんべい

神無月

2024.10.25

大蕨の棚田

通販担当店青柳のカメラ片手にご近所旅 (2024年9月29日山形県山辺町)

昔人の想いが宿る 美しい棚田

「大蕨(おおわらび)の棚田」は、山形県山辺町の大蕨地区にある美しい棚田です。約16ヘクタールの広大な面積を誇り、その一部は1999年に「日本の棚田百選」に選ばれました。この棚田の歴史は非常に古く寛永13年(1636年)には領地目録にも記録が残っています。棚田は、山の斜面を利用して階段状に作られた水田で、平坦な土地が少ない地域での農業の知恵が詰まっています。大蕨の棚田も、昔の人々が懸命に開墾し、整備してきたものなのです。

懐かしさ溢れる 杭掛けの天日干し

春、水が張られた田んぼは鏡のように輝き、夏には青々と育った稲が気持ちよさそうに風に吹かれます。秋には田んぼが黄金色に輝き、稲刈りの季節を迎えます。そして、この棚田の特徴でもある杭掛けの風景が広がります。杭掛けの天日干しは、この山形では伝統的な稲穂の乾燥方法です。高さ2メートルほどの杭を垂直に立て、横木をつけて刈り取った稲わらを重ねていきます。この棚田には、この杭掛けが千本以上立ち並び、まさに壮観。機械乾燥が主流となった現在では、この自然乾燥は滅多に見ることができない風景です。

守り続けたい棚田の風景 大蕨の挑戦

近年、この美しい風景に危機が訪れました。棚田の作業は重労働であり、生産者の高齢化などにより、伝統の杭掛けの風景が失われはじめたのです。そんな中、大蕨に生まれ育ち、昔から当たり前のように眺めてきた棚田の風景がなくなるのを寂しく感じた地元の人たちが、平成23年に集まりボランティア団体を結成しました。この団体の活動が切っ掛けとなり、棚田の再生に協力したいという熱い想いを持った人や団体が県内外から集まりました。美しい自然とふれあいながら、稲刈りから収穫、イベントの開催などの活動は、年々盛り上がりを見せ、地域の誇りとなっています。

天日干しにこだわる理由

9月下旬の早朝、ボランティアの方が棚田に集まり、稲わらの掛け替え作業を行っていました。掛け替えは、杭掛けした稲の向きを変えながら隣の杭に移す作業。天日干しでは欠かせません。作業している方にお話を伺うと、「この棚田の米は減農薬栽培。天日干しでお米をゆっくりと乾燥させるから、機械乾燥と違って、米のうまみや香りがしっかりと残る。だからすごくおいしい米になるんです」と笑顔で教えてくれました。この棚田の米で作ったおにぎり、想像するだけで喉がゴクリとなります。多くの人たちの努力や想いが、この美しい風景を長く後世に残す力となると確信した一日でした。



